

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

牛鳴いて銀杏大樹の散り急ぐ

池田 安起徒

校庭に誇り聳える照る黄葉

原口 サエ子

小春日の母校の銀杏訪ねけり

本浦 玲子

大陽俳句会

冬紅葉友の遺影の若きかな

逆瀬川 節子

夫の淹るこだわりカップや冬ぬくし

岩重 みどり

木を育つ夫婦へ石路の花明かり

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

夕暮れの垣根の奥より甘やかに

猫呼ぶ男の声透り来る

森岡 ちどり

大陽短歌会

一匹の小虫が時を停めたると

宝蔵 弘二

電子時計の修理叶はず

コロナより衛らん七十路若き日の

広川 ミドリ

フラのドレスで作りしマスク

山茶花のピンクの花と交換に

つるに連なる紅さつま芋

川辺 敦子

七草の粥もらう子もなき山里に

伊勢 タミ子

清水湧く田でセリ菜を探す

財部短歌会

秋野菜台風に押されて右左

いやいややと悲鳴を上げる

児玉 次雄

若葉照るかねの成る樹は実をもてず

子雀あがき樹中をただよぶ

井上 澄子

大型の重機は腕を高々と

たちまち砕く古き民家を

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

年しゆ取れば 五体も萎びつ

恥ねこつ 浜田 一好

灰せか無や 真てよか青年

桜島 鈴木 一泉

へも師走 来年なコロナ

消滅なれ 古川 一幹

肥満女房 コロナがまたも

肥えさせつ 桐野 奈世

客も無で 門松ちや紙で

け済ませつ 津留 群志

証拠いち テープい録つた

爺の寝言 小倉 りんりん

駄々子と 丸で似た様な

トランプ氏 西山 美代子

昨日んヨガ 最早身体が痛て

若け私 境 すやすや

大陽薩摩狂句会